



海津市まちづくり委員会

第6回

安全・安心まちづくり検討分科会資料

2011年7月15日

作成 岐阜経済大学 菊本舞

本日の分科会について

- 前回の分科会における現状と課題の抽出についての確認
 - 現状の把握
 - 課題の共有
- 提案書の方方向性についての議論

課題1. 子ども守るための地域づくり

対象者	現状	課題
子ども	・学校安全サポーター ・スクールボランティア ・子ども見守り隊 ・学童見守り隊 各学校で、小中学校あいさつ運動や見守り活動等を展開中だが、子どもたちも顔を覚えるまでは不審者との区別がつかない ・こども110番の設置 地域の協力と見守りの目	・子どもに不審者ではないことを示すための、子ども見守り隊や学校安全サポーターのユニフォームが必要 ・学校での活動に重点があり(取り組みにも限りがあるため)、田園地帯やハウスが多い本市では、登下校中の状態までは目の届かないところも多い ・地域間の取り組みの差がある ・学校・家庭・地域の連携が必要 ・事故や犯罪から身を守り、犯罪に関わらせないための教育や啓発活動 ・児童虐待からの保護

課題2. 地域コミュニティにおける住民関係づくりと市民の啓発及び参加

対象者	現状	課題
市民・住民	・情報提供、啓発活動 広報無線や市報による情報の提供と共有 ・防犯活動等ボランティアに取り組む人が限定的 ・地域コミュニティの衰退 ・社会の多様化	・広報や市報でも、情報が必ずしも正しく伝わっていない(意識しないと聞かない・読まない) ・緊急時メール配信システムの普及が必要 ・防犯・防災に対する市民共通の意識の醸成(いかに住民の関心を得るか) ・地付き層とよそ者との間の近隣関係の構築 ・世代間をつなぐための取り組みの必要 ・DVからの保護を地域ぐるみで実施する必要

課題3. 防犯ボランティア活動団体、関係団体 連携関係の構築

対象	現状	課題
防犯ボランティア 等関係団体	・学校安全サポーター ・スクールボランティア ・子ども見守り隊 ・学童見守り隊 (小中学校あいさつ運動) ・青パト隊(青色回転灯車によるパトロール＝8台の登録許可車あり、隊員数25名) ・市の交通安全指導員(巡回啓発活動) ・こども110番	・情報の把握と共有がされていない ・それぞれの活動範囲は限定的で連携がとれていない ・警察サイドの委員と市サイドの委員との連携がとれていない ・熱意に地域差がある ・ボランティアで活動しているため、個人の善意に依存しているところがある ・ボランティアのため予算が限られる

課題4. 犯罪を起こしにくい環境づくり ハード面の整備とソフト面での補完

	現状	課題
	・主要道路でも街路灯や防犯灯が少なく暗い場所が多い ・防犯カメラが少ない ・車上狙い・乗り物盗が多い ・県境に位置していることもあり、町外からの来町者が多い ・駅前の美化運動	・犯罪の抑止力になるため、設置数を増やしたいが予算に限りがある ・既設置物の修理費が増大しており、維持していくことも課題 <u>⇒行政にハード面の整備に関する支援を要望すると同時に、ソフト面でどのように補うことができるか取り組みを考える必要がある</u> ・町外から来た方のごみ捨て等が多く、環境美化の課題

提案書作成に向けての方向性(案)

- 1. 内容(実施内容または行動計画)
 - 犯罪の起きにくい環境づくりに向けて今後取り組むべきこと
 - 対象者
 - 方法
- 2. 実施主体や仕組み
 - 誰がどのような形で取り組むか
 - (新規の組織を発足するのか、既存の組織の連携や役割分担なのか)
 - 主体ごとの役割
 - 主体間の連携のあり方

課題解決の具体的な方法案を考える

	子どもを守る	市民参加・ 地域コミュニティづくり	防犯団体 間の連携	犯罪抑止 の環境づくり	その他 (高齢者 等?)
方法や取り組み 組むべき内容					
主体					
役割					
連携先					
その他					